

第4学年 社会科学習指導案

日 時 平成26年9月19日（金）5校時
場 所 陸前高田市立米崎小学校
学 級 4年生（男子12名女子14名計26名）
指導者 前 田 健 治

1 単元名 健康なくらしとまちづくり 「水はどこから」

2 単元について

（1）教材観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の目標（1）「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」及び内容（3）「地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。」に基づいて設定されたものである。

水道は児童にとって身近な題材であり、「蛇口をひねると水が出る」ということは児童にとってごく当たり前のことである。しかし、安全で安定した水の供給には、水道事業に携わる様々な人々の計画的・協力的な営みがある。本単元では、水道施設のしくみやそこで働く人々の仕事の様子、自分たちの生活との関わりなどについて調べることを通して、飲料水の確保が地域の人々の生活に不可欠であることや、その事業が計画的、協力的に進められていることを理解させるとともに、地域社会における健康で良好な生活の維持と向上に主体的に取り組むことができる態度の育成をねらいとしている。

（2）児童の実態

子どもたちは、前単元「ごみはどこへ」で、人々の生活に欠かせないごみ処理の事業が、計画的・協力的に進められていることを理解し、そのことにより地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを学んできた。また、ごみ処理の事業が自分の生活のあり方と密接に関係している問題であることを捉え、学校や家庭でのごみの捨て方を考えてきた。

子どもたちは、グラフや地図などの資料を読み取ったり、施設見学で疑問に思うことを聞き取り調査したりするなど、学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、自分の日常生活に問題意識をもち、それを主体的に解決しようとする態度の育成はまだ不十分である。さらに、授業の振り返りで分かったことや考えたことを明確に記述したり、積極的に発表したりすることを苦手としている子も多い。

3年半前の東日本大震災では、子どもたちも約3ヶ月の断水生活を体験しており、水の貴重さについては十分に理解できているはずであるが、今現在は水道水の供給も当たり前となり、当時の水のありがたさへの思いは薄れてきているものと思われる。

（3）指導観

単元の導入では、主体的に学ぼうとする児童の意欲を高めるために、自分たちの生活の中で、大量の水が様々な目的で使われていることを実感として捉えさせ、一人ひとりが問題意識をもって学習にのぞめるようにさせていきたい。

また、水道施設や設備の見学の際には、見学の目的や視点を明確に持たせると共に、単に水道の仕組みだけではなく、そこに携わる人の様々な苦労や努力についてもしっかりとつかませていきたい。

さらに、単元後半には、節水の必要性について、様々な資料やインタビュービデオ等を活用しながら、実感を持って理解させるとともに、限られた水資源を守るために何ができ

るのかということについて自分事として考えさせ、社会の一員としての自覚を持たせるきっかけとしていきたい。

東日本大震災による断水を経験し、水の大切さについては誰よりも身にしみて分かっているはずの子どもたちである。震災津波の体験から学んだことを生かし、自分のこれからの生活や未来に生かしていくというのは、いわての復興教育の大事な意義であり、単元全体を通して、震災時の断水の苦しみを経験した自分たちならではの思いを大切にさせながら、主体的に追究活動や表現活動に取り組ませていきたい。

3 単元の見直し

地域の人々の生活にとって必要な飲料水の確保について、水道施設のしくみやそこで働く人々の仕事の様子、自分たちの生活との関わりなどについて、見学、調査したり、資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることについて考えるようにする。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
① 飲料水確保に関わる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べている。 ② 地域社会の一員として、節水の取り組みに協力しようとしている。	① 飲料水確保に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ② 飲料水確保に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え適切に表現している。	① 施設・設備などを観点に基づいて見学・聞き取り調査を行ったり、図やグラフなどの資料を活用したりして、飲料水確保に関わる対策や事業について必要な情報を集め、読み取っている。 ② 調べたことを図や文章などにまとめている。	① 飲料水確保と自分たちの生活とのかかわりを理解している。 ② 飲料水確保に関わる対策や事業は計画的・協力的に進められていることを理解している。

5 指導と評価の計画（全8時間）

	目標	主な学習活動	主な資料	評価方法と【評価規準】
1	家庭や市全体の水道使用量などを調べ、そこに見られる特色や水道の仕組みに関心をもち、水道事業について調べる計画を立てることができるようにする。	○一日に使う水の量の表を見ながら、自分の生活と水の密接なつながりに気づき、水道水に関する学習に見通しをもつ。	・1日に使う水の量調べの表 ・市全体の水の使用量のグラフ	ノートの記述内容から、「生活の中で使われる水の量について、自分の生活とかわらせながら振り返り、学習問題を進んで考えているか」を評価する。 【関一①】 【思一①】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">陸前高田市の水のひみつをさぐる</div>				

2	自分たちの使う水が、各種の施設を経由して送られてくることをとらえることができるようにする。	○水道水の経路について調べる。 ○水源地や配水池のはたらきについて考え、見学に向けた課題を設定する。	・水源地、配水池の写真 ・水道水の経路の模式図	ノートの記述内容から、「提示資料から、自分たちの家や学校までの水道の経路をとらえているか」を評価する。 【知一①】
3 4	水源地、配水池の様子を見学し、分かったことをまとめることができるようにする。	○水源地、配水池を見学し、水道水の経路やそこで働く人々の努力などを調べる。	・見学のしおり	見学ノートの記述内容から、「観察や調査をし、水道水の経路や働く人々の努力について必要な情報を集め、読み取っているか」を評価する。 【技一①】
5	水道水の経路や働く人々の努力について、調べたことを図や文章などにまとめることができるようにする。	○見学して分かったことをまとめる。	・水源地、配水池の写真 ・水道水の経路の模式図	ノートの記述内容から、「水道水の経路や働く人々の努力について、調べたことを図や文章などにまとめているか」を評価する。 【技一②】
6	水源林について調べ、その仕組みやはたらきをとらえるとともに、水源を守るための人々の努力に気付くことができるようにする。	○水源林のはたらきについて調べる。 ○水源林を守るために活動している人々の取り組みについて調べる。	・森林のはたらきの模型 ・水源を守る取り組みの具体例 ・住田町役場の人の話	ノートの記述内容から、「水源林のはたらきや水源をはじめとする水の経路のいたるところで様々な人々が努力していることに気付いているか」を評価する。 【知一②】
7 本 時	節水が必要な理由をとらえ、水の大切さについて考えることができるようにする。	○節水の必要な理由について調べる。 ○水の大切さについて考える。	・水道料金を表したグラフ ・湧水の写真 ・水道の保守点検の様子についての写真 ・震災後の給水支援の様子を表	ノートの記述内容から、「節水が必要な理由をとらえ、水の大切さについて考えているか」を評価する。 【思一②】
8	水資源を守るために、自分たちが何をしたらよいか考えることができるようにする。	○これまでの学習を振り返る。 ○水資源を守るために、自分たちにできることを考える。	・これまでの提示資料	ノートの記述内容から、「水資源を守るために、自分たちにできることを考えているか」を評価する。 【関一②】

6 本時の目標（7/8）

(1) 目標

写真や表、映像資料などの読み取りを通して、節水が必要な理由をとらえ、水の大切さについて考えることができるようにする。

(2) 評価

観点	評価方法と評価規準	努力を要する児童への手立て
社会的な 思考・判断・表現	ノートの記述内容から、「節水が必要な理由をとらえ、水の大切さについて考えているか」を評価する。 【思一②】	個別に支援を行い、板書を振り返らせたり、資料から分かることを考えさせたりする。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点（※ 評価）	資料等
導入 7分	<p>1 前時までの学習活動を想起させる。</p> <p>2 節水についての資料から考えたことを話し合う。</p> <p>3 市販のペットボトルの水と1 m³の水道水の料金の比較から考えたことを話し合い、学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">なぜ、水を大切にしなければいけないのだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 水道が届くまでにどのような努力や工夫があったのか振り返らせる。 社会全体で水を大切にしようとしていることを押さえる。 水道の水が意外と割安であることから、水は大切なものという児童の漫然とした思考にゆさぶりをかけ、課題意識につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 節水をよびかけるポスター 節水を意識している人の数の移り変わり(表) ペットボトルの水 1 m³の模型
展開 30分	<p>4 学習課題の答えを予想する。 (予想される考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> 使いすぎるとなくなる。 安くても、お金がかかっているから。 <p>5 資料をもとに学習課題を解決する。</p> <p>(1) 1 m³あたりの水をつくるのにかかる費用の推移から</p>	<ul style="list-style-type: none"> 予想はノートに書かせ、自分なりの考えをしっかりとめさせる。 安全な水を安定して供給するための費用が、年々上がっていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 m³の水道水をつくるのにかかる費用の移りかわり(グラフ) 水道施設の修繕作業や日常的な保守・点検の様子(写真)

	<p>(2) 住田町役場の人の お話や渇水時の様子 の写真から</p> <p>6 震災時の体験から、 水の大切さについて考 える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水が少なくなってしまうこと もあるということを押さえる。 ・震災時の水のない生活の苦勞につ いて想起させながら、水が人々の 生活に欠かせないものであると いうことをしっかりとつかませ たい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住田町役場の人の話 (映像資料) ・渇水時の様子の写真 ・社会科副読本（震災後 の給水支援の様子、水 道事業所の人の話、仮 設自治会長さんのお 話）
<p>ま と め</p> <p>8 分</p>	<p>7 本時の学習について 振り返る。</p>	<p>学習課題について分かったことや 考えたことをノートにまとめさせ る。</p>	
	<p>(期待する振り返りの例)</p> <p>水をつくるためにはたくさんのお金がかかっていることや、川の水が少なくなってしまうこともあるということが分かりました。</p> <p>しんさいの時に水道が使えなくて大変だったことや、たくさんの人から助けてもらったことをわすれず、これからも、今まで以上に水を大切にしていきたいです。</p>		
	<p>8 次時の予告をする。</p>	<p>※ノートの記述内容から、「節水が 必要な理由をとらえ、水の大切さにつ いて考えているか」を評価する。 【思一②】</p> <p>水資源を守るために、自分たちにで きることについて考えることを伝 える。</p>	